

とりもどそう！ きれいな海岸

平成12年度 海岸ゴミ調査結果



建設省

海岸ゴミ調査の概要

はじめに

我が国は、四方を海に囲まれているため、海岸線の延長は非常に長く、約35,000kmにも及びます。我が国の海岸では、毎年のように襲ってくる台風や大地震による高潮や津波などから国土を守るための海岸整備を行ってきました。また、海岸は、多様な生物が生息・生育する貴重な場であるとともに、白砂青松に代表される優れた自然景観をなしており、我が国の歴史・文化・風土を形成してきました。一方、海岸は、古くから漁業や港として利用されており、近年ではレジャーやスポーツ、あるいはさまざまな動植物とのふれあいの場としても利用されています。

平成11年には海岸法（海辺を守るための法律）が改正され、これまでの「災害から国土を守る」という視点とともに新たに「海岸の環境を守る」ことや「海岸の適正な利用」という視点を加え、よりよい海岸づくりを目指すこととなりました。

海岸線の環境を守る上で、今最も大きな問題の一つとなっているのが、海岸のゴミです。海岸のゴミは、海岸を利用する人が捨てたもの、不法に投棄されたもの、川や海から漂着したもの、あるいは海藻などが打ち上げられたものなど様々です。このゴミによって、私たちの尊い財産である海岸が汚れてしまうばかりでなく、例えばガラスの破片が落ちていて危険だったり、さらには生き物たちをも苦しめているのです。

そこで建設省では、全国の海岸ゴミについて広く実態調査を行い、その現状を把握することにしました。調査は、地域住民の方々や地元ボランティア団体などの協力を得ながら行いました。ここにその調査結果概要を報告することになりました。国民の皆さんに海岸ゴミの実態を知っていただければ幸いです。そして今後、地域の個性を活かしつつ「美しく、安全で、いきいきした海岸」づくりを皆さんと一緒に進めていきたいと思っております。

〔調査の規模〕

調査海岸数：380海岸

調査海岸総延長：520キロメートル

調査参加者数（のべ）：94,174人

調査した場所



沿岸の特色ごとに、8つの沿岸に区分してまとめました。(カッコ内の数字は調査海岸数です)

能登半島猿山岬から北海道知床半島までの日本海・オホーツク海沿岸 (78海岸)

知床半島から房総半島までの大太平洋沿岸 (67海岸)

房総半島から紀伊半島潮岬までの大太平洋沿岸 (36海岸)

潮岬から鹿児島県大隈半島までの大太平洋沿岸 (47海岸)

瀬戸内海沿岸 (35海岸)

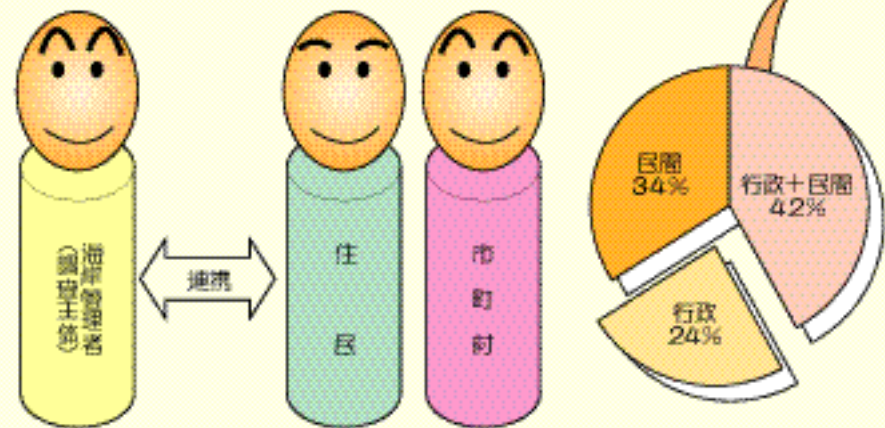
能登半島猿山岬から関門海峡までの日本海沿岸 (43海岸)

関門海峡以南から大隈半島までの九州西岸 (62海岸)

種子島以南の南西島沿岸 (12海岸)

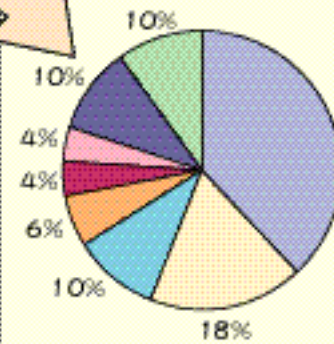
調査の体制

海岸を管理する都道府県が、地域の住民・地元の市町村と連携して、全国一斉に調査が行われました。



調査に参加した人たち

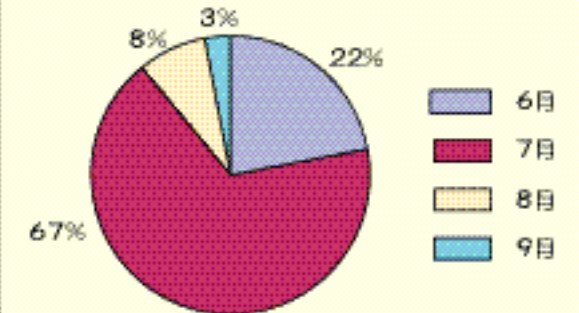
自治会・町内会、子供たちと学校関係者の方々を中心とした地域の多くの方々のご協力により、この調査を実施することができました。



- 自治会・町内会
- 小・中学校・高校・PTA・育成会
- 漁業組合
- 商工会・観光協会
- 老人クラブ
- 養護団体・町づくり協議会・福祉協議会
- 企業・団体職員ボランティア
- その他

調査の時期

地域の海岸清掃とあわせて、調査は行われました。海水浴シーズンの直前に最も多く実施されました。



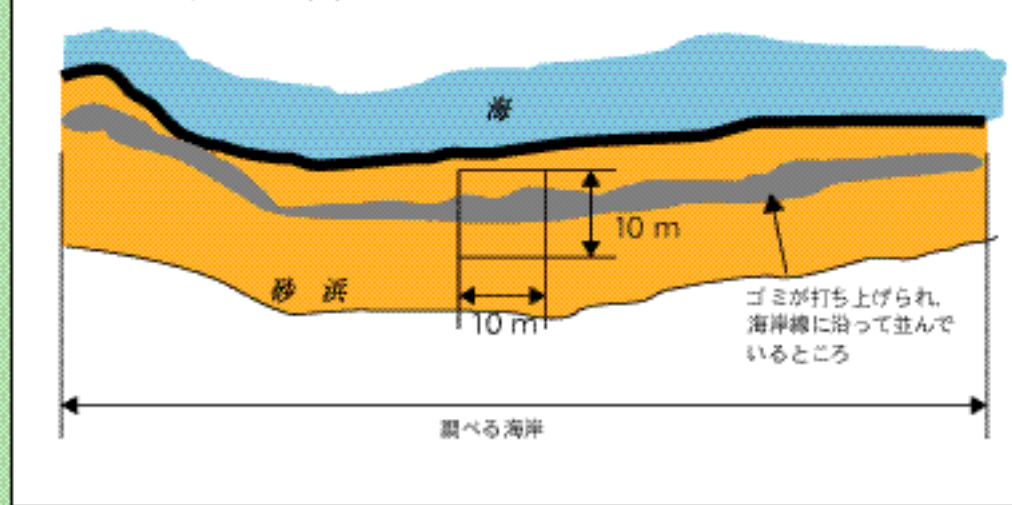
調査の種類 ①

種類別調査

砂浜に10メートル四方の範囲を区切って、その中にあるゴミの種類別に重さを量りました。



調査したメッシュの位置



調査の種類 ②

全体重量調査



海岸全部のゴミを集めて、主にトラックの積載量から、全体量を推計しました。

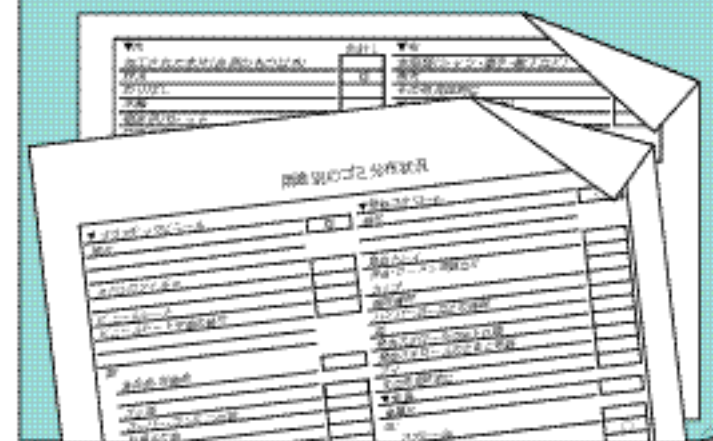
発泡スチロールみたいで、軽いけど、目立つゴミもあるから、重さだけではゴミの量はわからないよ



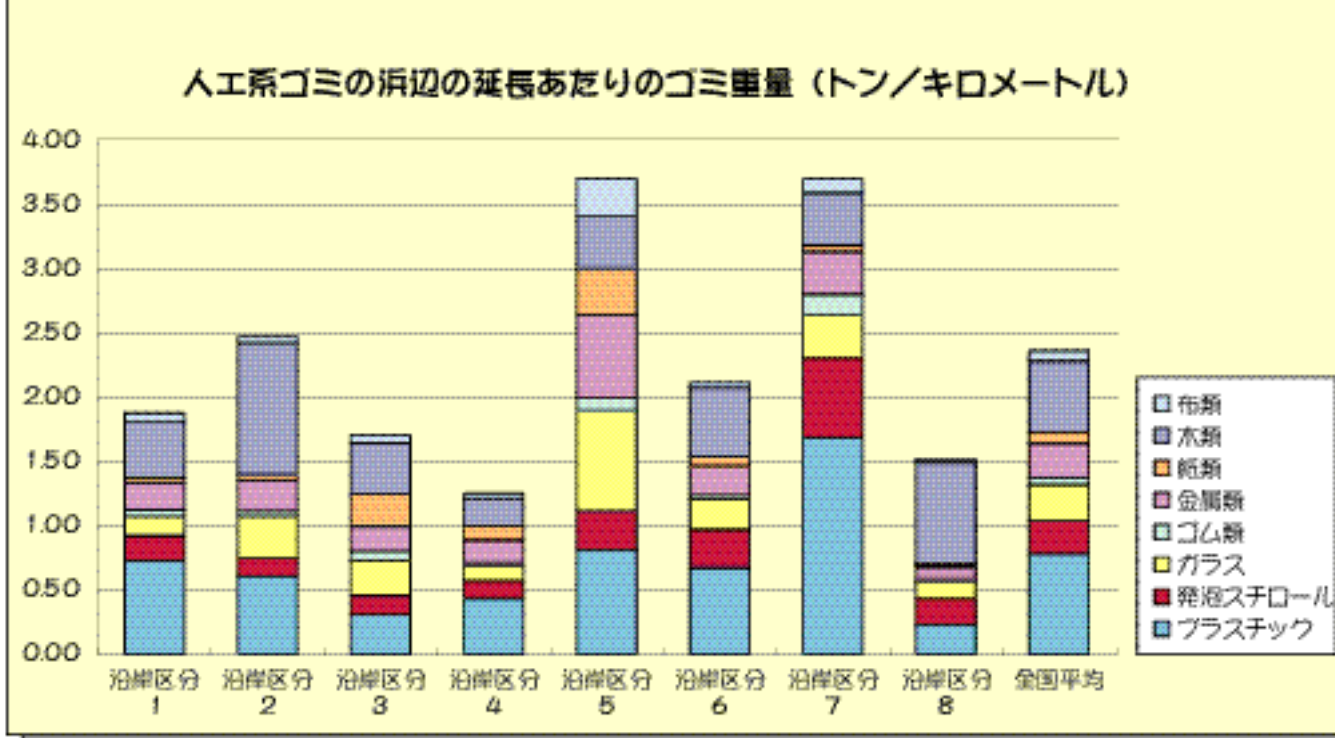
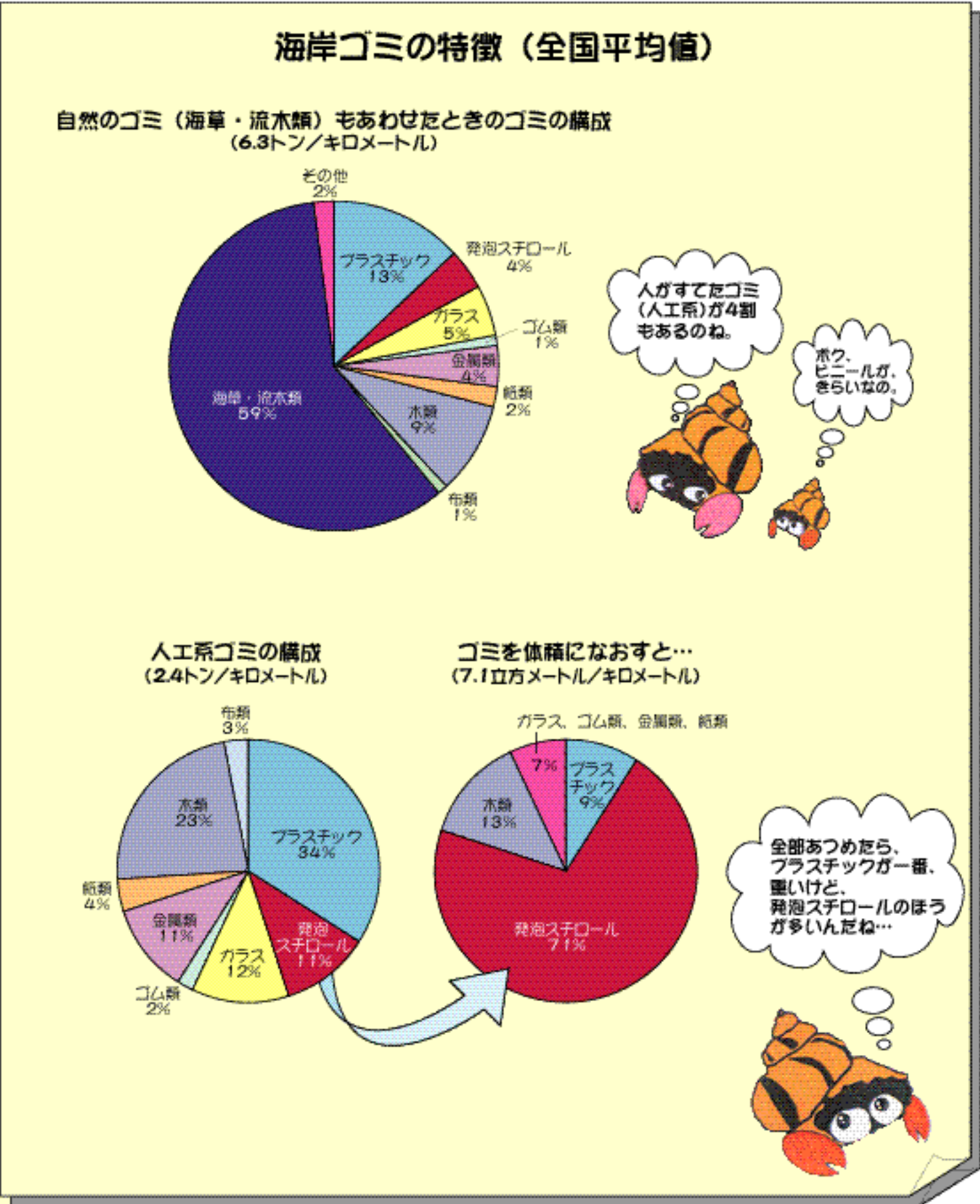
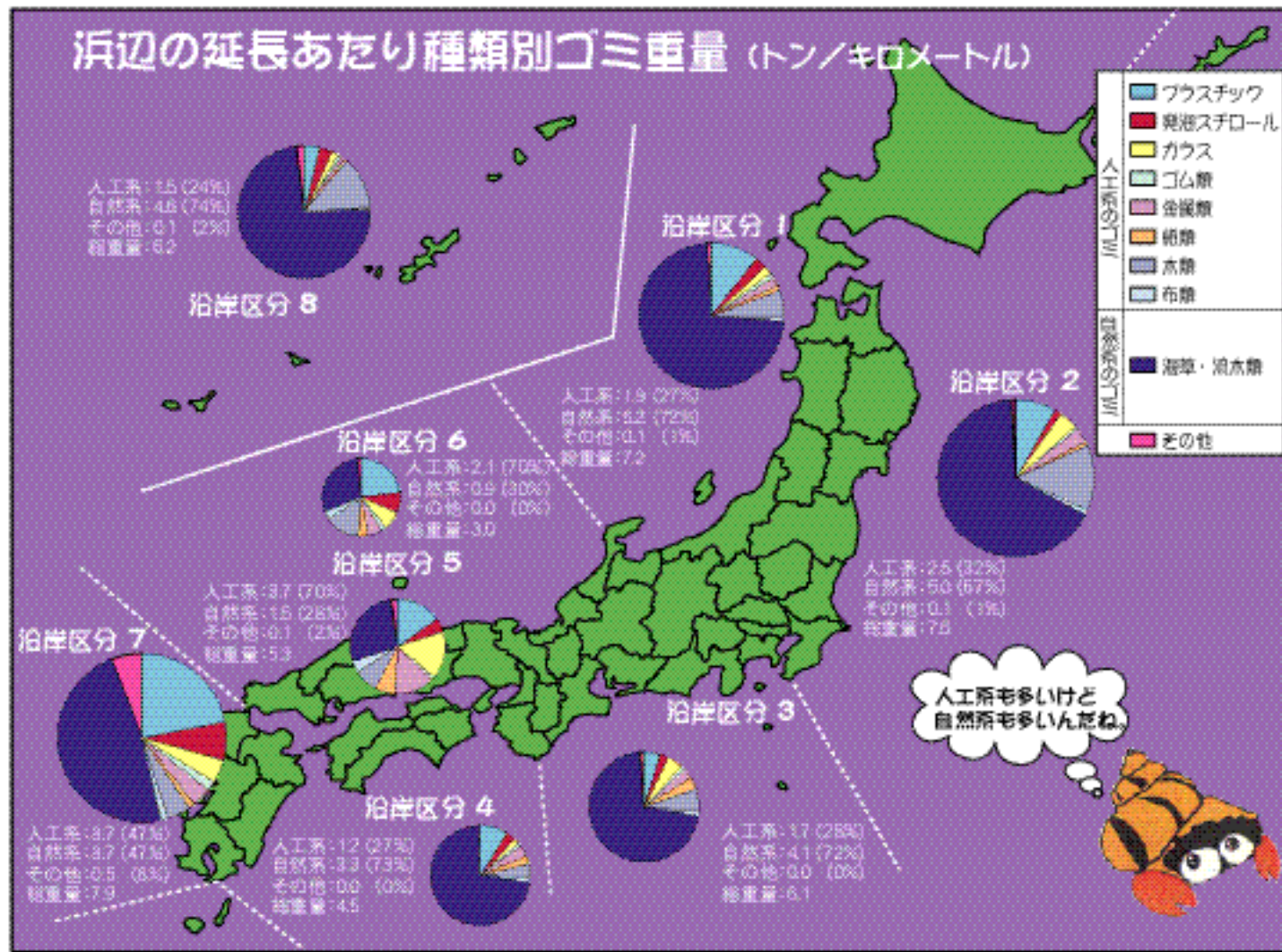
調査の種類 ③

目立つゴミ調査

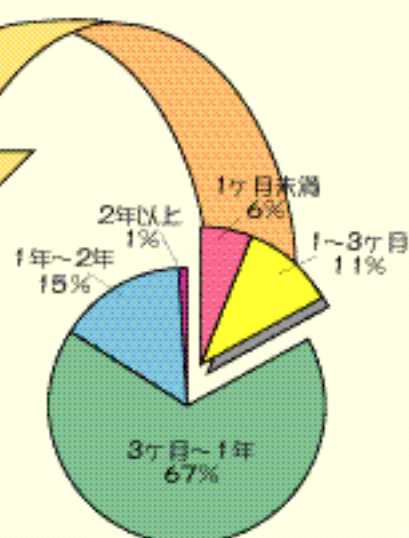
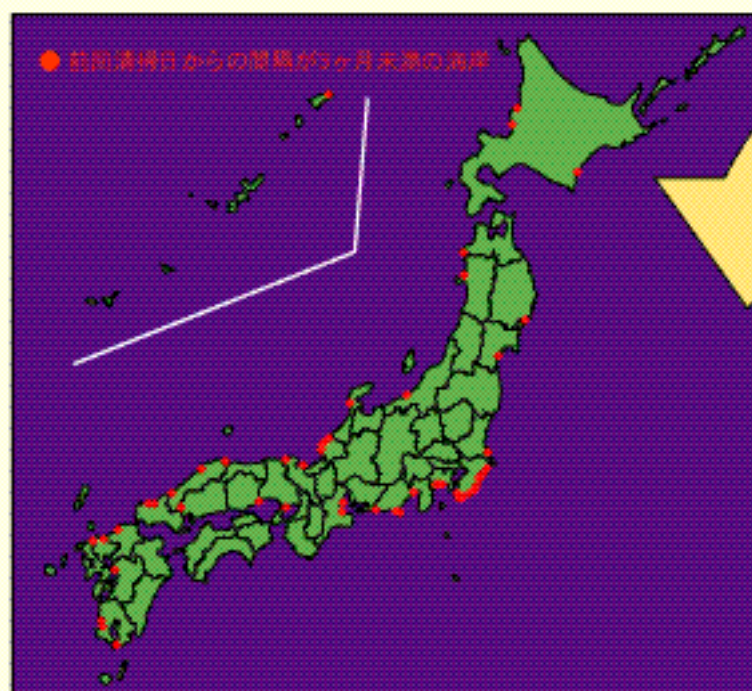
メッシュのなかで、特に目立ったゴミを報告してもらいました。



海岸ゴミ調査の結果 その1 (種類別調査と全体量調査の結果)



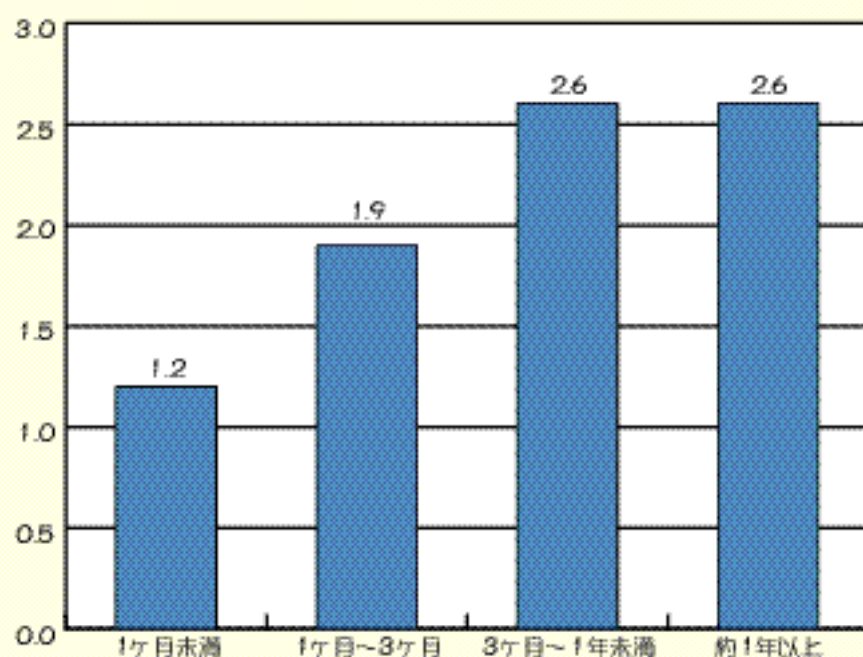
海岸ゴミ調査の結果 その1 (…の続き)



前回清掃日と
今回清掃日の間隔

前回清掃日との間隔と人工系のゴミの重量

(トン/キロメートル)

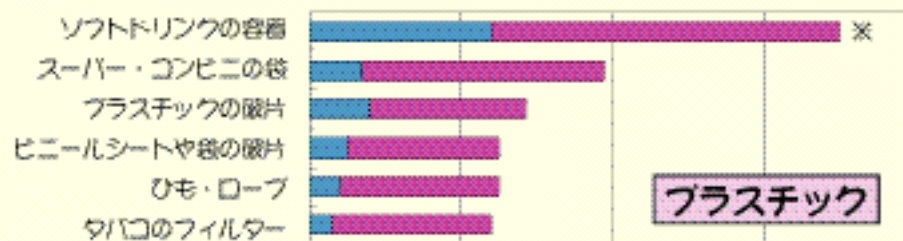


海岸ゴミ調査の結果 その2(目立つゴミ調査)

■ 各種類 のなかで、半分以上を占めている海岸
■ 各種類 のなかで、半分まではいかないが、目立つ海岸

この調査については353海岸から回答をいただきました。

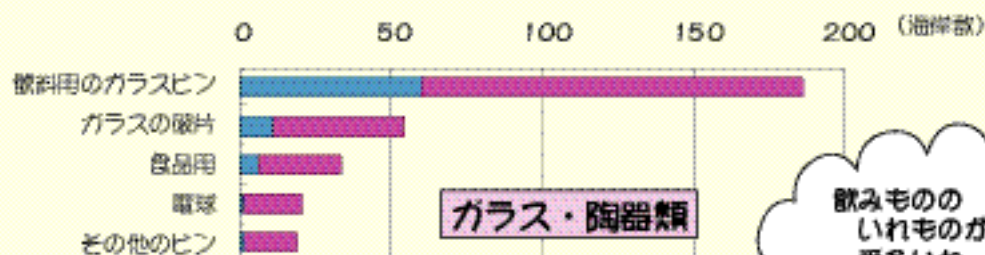
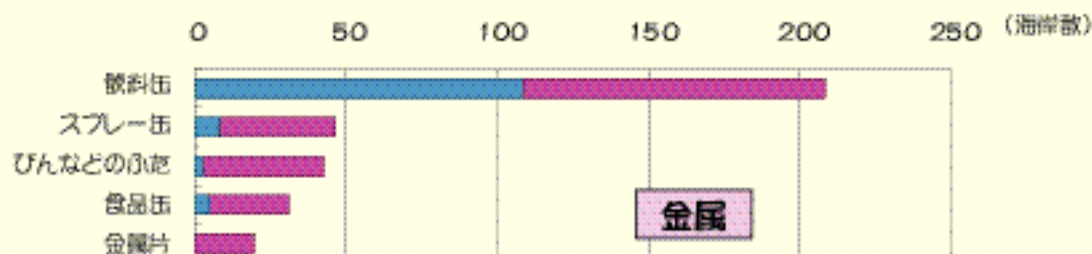
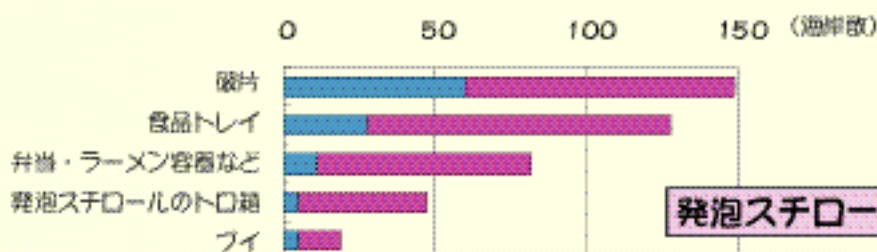
(多く見つかったゴミ)



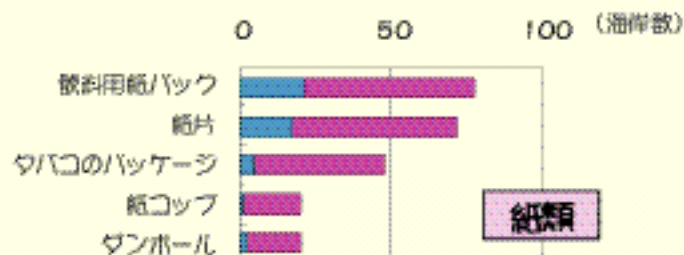
※見方の例

プラスチックの中でソフトドリンクの容器が半分以上を占めている海岸数—59海岸

プラスチックの中で半分まではいかないがソフトドリンクの容器が目立った海岸数—114海岸
合計—173海岸



飲みものの
いれものが
一番多いね。
悲しいなあ…
…クスン



こんなゴミ あんなゴミ



誰？自動車を捨てたのは！



カーペット！



流れ着くビンにはフタがあるね



ゴミを捨てにきた人もいます...

...ということは、
いったい海の底
はどうなってい
るのかな？

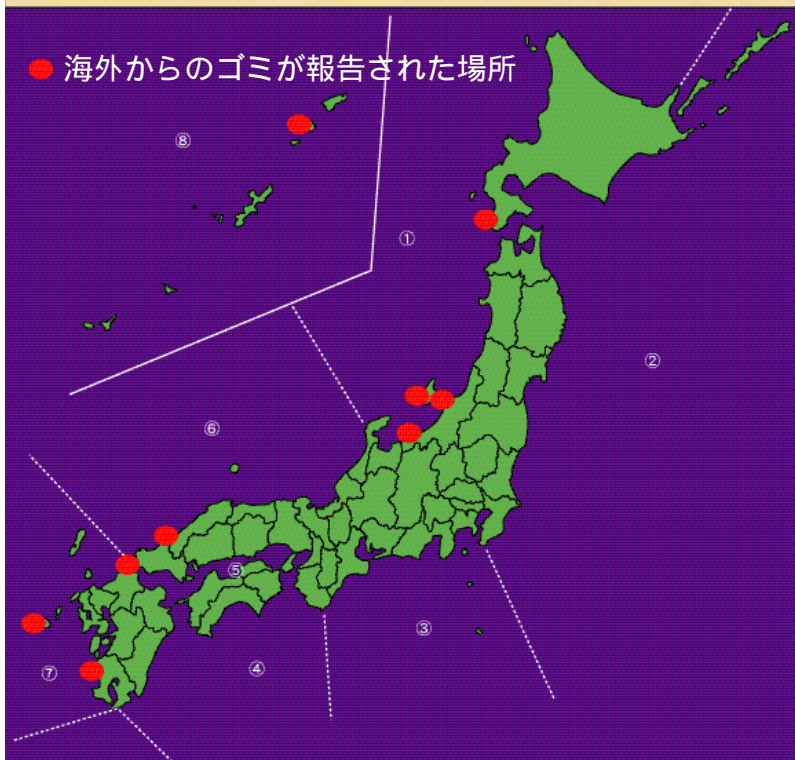


調査でみつかった海外からの漂着ゴミの例



ハングル文字の容器

中国の漢字がみえるボトル



海外ゴミマメ知識

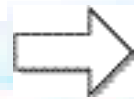
ゴミの生まれた国をバーコードで知る方法を教えるね！
 左端の数字が49か、45は日本、
 471は台湾、880は韓国、690から693
 は中国、460から469はロシアなんだから、
 では、
 下の3つはどこの国のゴミか、わかるかな？



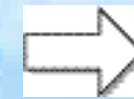
みんなで掃除したら、きれいになりました！ (各地のゴミと清掃・調査時のようす)



「えーっ、これ掃除するの？」



でも、みんなでやったら...



...このとおり、素晴らしい海岸が蘇りました。
(静岡県大塔町)



「ぶち(すごく)きれいな海岸じゃけえのう、大事にしちよってね」



(山口県三隅町)



メッシュ調査に参加してくれた小・中学校生

(島根県温泉津町：左、鹿児島県日吉町：右)



「この発泡スチロール何に使ったのかしら？」
(島根県平田市)

背景の写真は秋田県八竜町の中学生。みんながんばったね。



掲 示 板

深刻な海岸のゴミ問題（こんなひどいことになっています）

漂着ゴミのようす



危ない！使った注射針があるよ！



写真提供：
防衛大学校
山口晴幸教授



外国のペットボトルもたくさん



生物への影響

リング状のゴミが口にはまって
死んでしまったアザラシ



プラスチックリングにからまって、成長ととも
に体にくいこんでしまった魚

魚をとる網に絡まってしまったウミガメ



タバコのフィルターをついばむ海鳥

写真提供：米国CMC / JEANクリーンアップ全国事務局

今回清掃や調査に参加した方々の声

海辺で発見！

・川から流れ出たものも多かったが、漁具もかなり捨てられていました。（熊本県の参加者）

・昔はきれいな海だったのに、今は砂浜が少なく、ビニール、発泡スチロール等の小さなゴミが大量に出るようになった。（静岡県 70歳男性）

・町民を挙げて汗を流しながら清掃をしました。見違えるような海岸になり、すがすがしい気持ちになりました。（静岡県 71歳男性）

・ガラスの破片が思ったより多く、大変危険です。子供達も安心して遊べません！（静岡県 26歳男性）

・ゴミの分布は、波打ち際に多く分布していました。（富山県の参加者）

・海岸にはたくさんのゴミが捨てられていること、そのゴミが生物や自然に害を及ぼしていることがわかって、いい体験ができました。（千葉県 14歳男性）

・学校の集会で呼びかけたところ、1年生から6年生までたくさん参加してくれて、素晴らしい活動になりました。また参加したいです。（静岡県 12歳女性）

・初めて参加しました。ゴミの量を見て信じられませんでした。（熊本県の参加者）

海岸ゴミをなくすには…？

・国民一人一人がゴミを捨てない心がけを高めることが必要。（静岡県 25歳男性）

・川や用水にゴミを流さないように市民への呼びかけが大切。（富山県の参加者）

・海から流れてくるゴミも含め、人間が発生源なのです…（静岡県 25歳）

・マナー違反は、いい年齢の大人の場合が多い。小さな頃からやしつけが大切。（静岡県 42歳女性）

・自分の近くの海岸は自分たちできれいにするという考えを子供の頃から教育することが必要。（富山県の参加者）

・ほとんどが個人で捨てたと思われるゴミ。個人のモラルの改善を。（富山県の参加者）

・集めたゴミの処理に困っています。（静岡県の参加者）

・施設や物、道具などを大切にする意識を家庭や学校で高めることが必要。（熊本県の参加者）

長生村立長生中学校 学年 2年 氏名 鶴澤みづき

(調査・発見を大切にしたい)

私は海岸ゴミ実態調査に参加して今現在の海岸のゴミは私の見たがきり去年にくらべて、と言うより年々増加していると思います。年々増加していると言う事は、今後これ以上にゴミが増えると言う事にもなるんじゃないかと考えました。そのゴミの増加を止めるには一人一人がそれぞれに注意すればいい事だと思えます。と言うのは例えば、調べたゴミの中にあたしや、おかしなど入れ物やビニール。このような物は本当に家に持って帰って捨てるのはかなりあたり前。あたり前と言う事は簡単にできるんじゃないのでしょか？そこから始めないかきりこのままゴミは増え続けると思います。だから私自身はできるだけの事は一生懸命やりたいです。

あ・と・が・き

今回の調査結果から、ゴミに悩まされている日本の海岸の現状がおわかりいただけたことと思います。調査に参加いただいた多くの方々からは、「ゴミを拾ってきれいな海岸にするより、ゴミを捨てないことが大切だ」というご意見をいただきました。

今後とも地域の方々と連携をとりながらきれいな海岸を取り戻せるよう努力していきます。

今回の調査では、できるだけ多くの海岸の状況を地域の皆様と一緒に調べることを目的としたため、ゴミの全体量などはトラックの積載量を用いて推計しています。

今後はさらに精度を高めた調査の方法についても検討していきます。

皆様のご意見などをお寄せ下さい。

これからも一緒に海岸の
ゴミを考えてね！



ご質問・お問い合わせは、

建設省 河川局 海岸室 まで

連絡先TEL 03-3580-4311

FAX 03-5251-1954

本パンフレットは建設省河川局のホームページでもごらんになれます

<http://www.moc.go.jp/river/>